

2020年度 カブトガニ幼生生息調査結果



1 調査方法

(1) 調査場所

山口湾において砂泥質で生息数が多い『長浜』・『南潟』(図1)。

(2) 調査手法

設定した調査ライン上を1～3人で歩き、1ライン当たり2m幅で発見したカブトガニ幼生について、①個体数、②前体幅(図2)、③発見地点を記録しました(ベルトトランセクト法)。

長浜では16m間隔で20ライン(1,020m)、南潟では60m間隔で5ライン(1,000m)で実施しました。

(3) 調査日時

- 長浜：2020年8月22日 13:30～17:30 (中潮・最干16:59)
※雷雨のため調査中断。
- 南潟：2020年8月31日 11:00～14:00 (中潮・最干13:48)

(4) 調査人数

- 長浜調査：53人
- 南潟調査：17人



図1 調査場所



図2 前体幅の計測

2 調査結果

(1) 発見個体数

長浜で279個体(参考値)、南潟で169個体が確認されました(図3)。

長浜は、雷雨による調査中断で、本来の調査範囲の3～5割程度しか実施できなかったため、参考値扱いとしています。

(2) 推定個体密度

調査範囲から試算した1ヘクタール当たりの推定個体密度は、南潟で176/haでした(図4)。

カブトガニは、場所により生息状況が大きく異なるため、調査を中断した長浜については、評価していません(以下、同様に評価せず)。

(3) 齢数の構成

前体幅から幼生の齢数を推定したところ、2006年には約7割が7齢(孵化から約4年目)で構成されていましたが、近年は4～6齢の若い齢数の割合が増加し、多様化がみられています(図5)。

(4) 生息地点

南潟のライン別の個体数をみると、2020年度は比較的沖側に多い傾向で、岸側のライン1～3は、近年減少傾向が見られます(図6)。

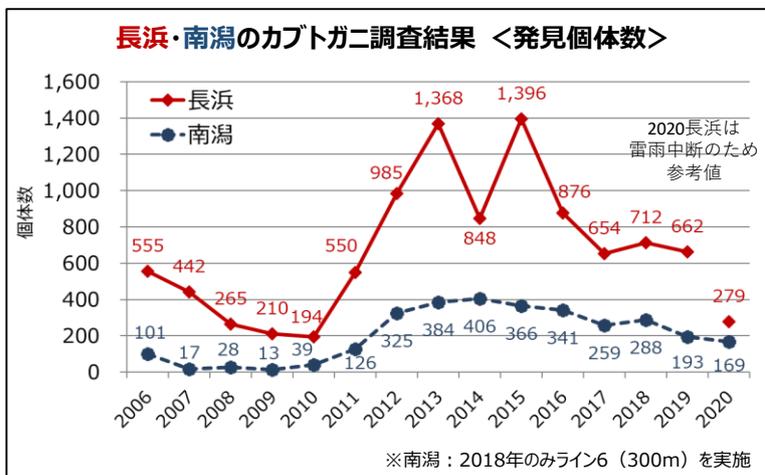


図3 カブトガニ幼生の発見個体数

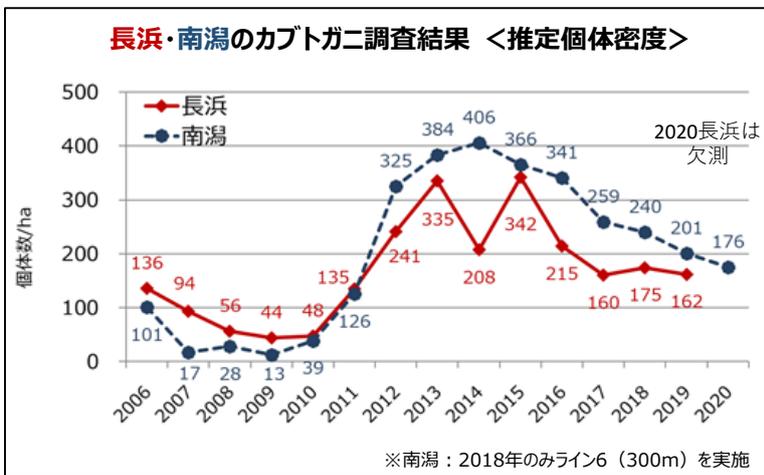


図4 カブトガニ幼生の推定個体密度

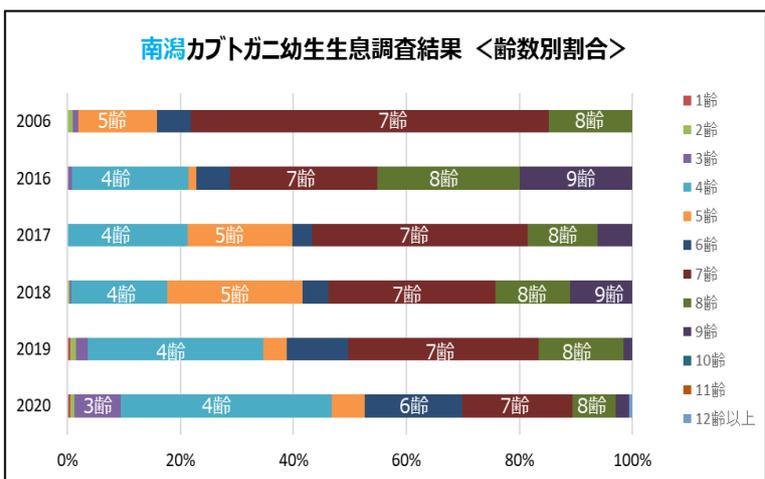


図5 カブトガニ幼生の年齢数（南潟）

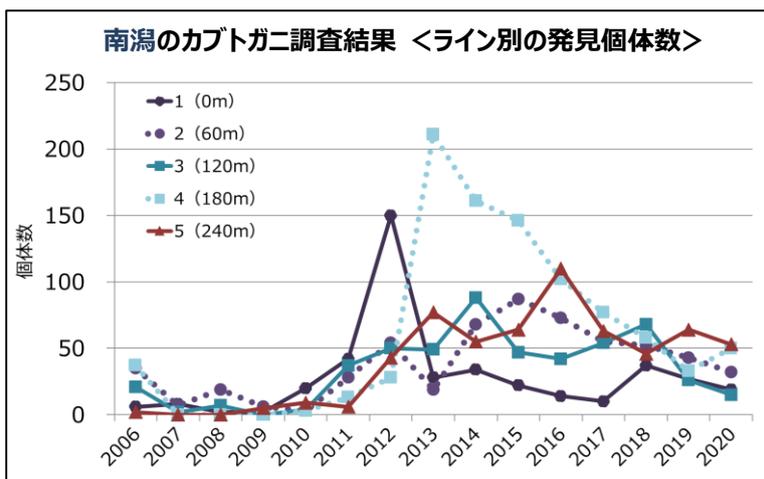


図6 カブトガニ幼生のライン別発見個体数（南潟）

3 産卵調査

(1) 調査

- ・時期：2020年6月～8月
- ・場所：周防大橋東岸
- ・実施者：山口カブトガニ研究懇話会(酒井 大樹 氏からデータ提供)
- ・方法：満潮時刻前に、海岸等を歩き、産卵に訪れているつがいを計測

(2) 結果

| 年 | つがい数 | 最高数/日 | 調査回数 | 調査時期 |
|------|-------|-------|------|-----------|
| 2016 | 411 | 103 | 25 | 7/7～8/17 |
| 2017 | 1,122 | 143 | 36 | 5/26～8/11 |
| 2018 | 701 | 131 | 44 | 5/17～8/12 |
| 2019 | 856 | 112 | 35 | 6/1～8/6 |
| 2020 | 709 | 89 | 41 | 6/5～8/10 |

4 おわりに

山口湾のように、ボランティアや大学等の多くの協力を得て、カブトガニの大規模な生息状況調査を実施している地域は無く、貴重なデータが蓄積されています。本活動は、国連生物多様性の10年日本委員会の「生物多様性アクション大賞2017（まもろう部門）」に入賞しており、絶滅の危機に瀕しているカブトガニを守るためのとても大切な活動です。今後も活動を継続し、住民等へのカブトガニ保護の啓発に努めていきたいと考えています。